

創造・誇り・愛！ 輝く七中 煌めけ生徒！！

立川市立立川第七中学校

校長 水越 伸朗

学校だより

第1号

令和5年4月14日



# とちのき

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511 FAX (042) 531-6103



七中 HP URL

## 新年度の始まりです

校長 水越 伸朗

令和5年度が始まりました。4月7日の入学式で163名の新入生を迎え、全校生徒459名の学校となりました。前日6日の始業式では上級生となった2年生、3年生の明るい姿を見ることができました。子どもたちの表情からは、希望を胸に新年度に臨もうとする意気込みが感じられ、とてもうれしく感じています。七中生が充実した学校生活を送り、心豊かな人となるよう教育活動を進めてまいります。今年度も、ご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

さて、4月6日の始業式では「伝統をつなげる」という話をしました。その一部を掲載します。

～始業式講話より抜粋～

さて、こちらを見てください。これは、駅伝で使われる「タスキ」です。先日、校長室の整理をしていた時に見つけました。この「タスキ」は、4年前まで、毎年2月に開催されていた「中学生 東京駅伝大会」の成果をレガシーとして引き継ぐための記念として、東京都教育委員会が作成したものです。学校名入りで、都内の全中学校に配られました。ですから、この「タスキ」には「中学生 東京駅伝大会記念 立川市立立川第七中学校」と刺繍が入っています。10年以上続いたこの駅伝大会は、中学校2年生によって区市町村対抗で行われていました。七中からも、何人もが立川市の代表として出場し、活躍しました。

最近では駅伝人気が高まり、各地で様々な駅伝大会が開催されており、テレビでも見ることもできます。では、駅伝の魅力はどこにあるのでしょうか？駅伝は、メンバーの誰か一人が速くてもそのチームが勝てるわけではありません。逆に誰か一人が不調でタイムを落としても他のメンバーが協力して取り戻すこともできます。また、長い距離で戦うので途中順位の変動もあり、レースの中で様々なドラマが生まれます。そういったところに、駅伝の魅力があるのだと思います。選手たちは、「タスキ」をかけて、次のランナーがいる中継所に向けて走り続けます。「タスキ」は各チーム独自の物で、デザインや色、チーム名の書体など昔から引き継がれてきています。何年も、何十年も引き継がれてきた、伝統あるチームの「タスキ」には、その時代の様々な出来事や思いが込められています。ですから、次のランナーに引き継ぐということは、先輩たちから受け継いだ伝統を、後輩たちに引き継ぐ、ということにもなるのです。

今日から新年度が始まります。皆さんも、卒業生から受け継いだ伝統を大切に、さらに立川七中を発展させていってください。そのためにも「前の学級よりも、もっと良い学級にしていこう」「新しい先生のもとで、しっかり勉強していこう」という、前向きな気持ちで臨んでください。そして、明日入学する1年生に、伝統を引き継いでいってください。

